

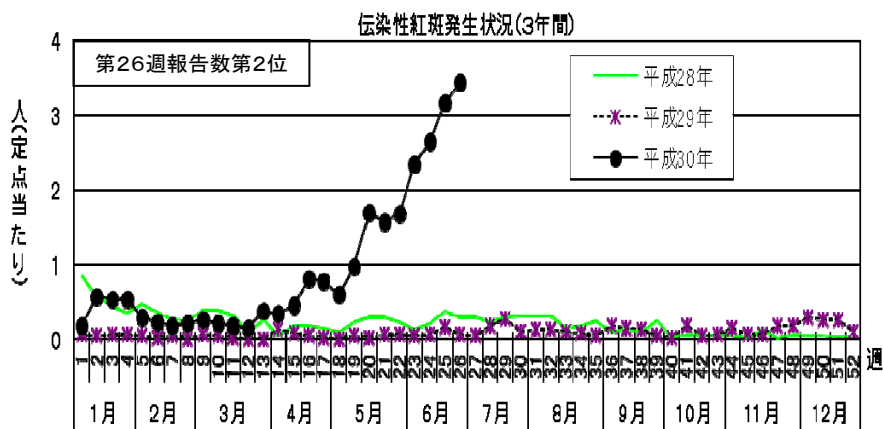
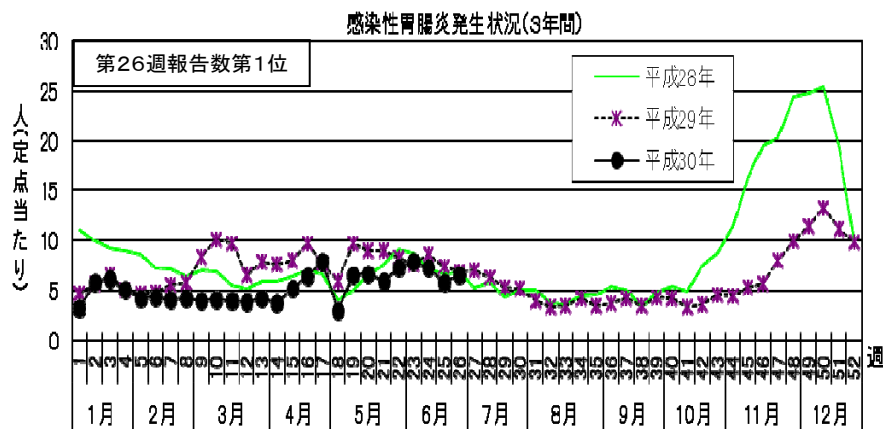
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月25日（月）～平成30年7月1日（日）〔平成30年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 伝染性紅斑 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.56人と前週（5.81人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は3.44人と前週（3.16人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.36人と前週（4.57人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

★RSウイルス★  
アールエスーくん



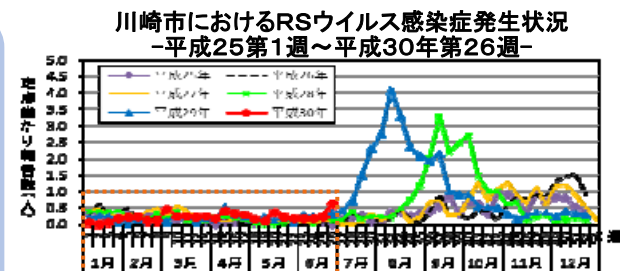
## 流行の兆しか？～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は発熱、咳、鼻汁を主症状とする呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%の児が感染するといわれています。かつては秋や冬が流行のピークでしたが、昨年は7月から9月にかけて大きな流行がみられました。

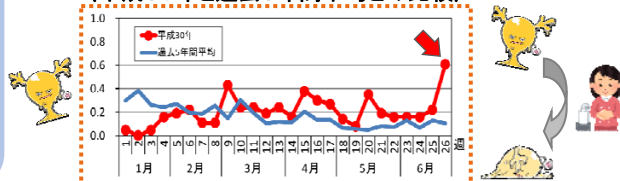
川崎市では3月以降、過去5年間と比較してやや高いレベルで推移しており、第26週（6月25日～7月1日）は定点当たり患者報告数が0.61人と前週（0.22人）から急増し、昨年よりも2週間程度早く報告数が増加し始めました。

### RSウイルス感染症

- ◆**感染経路**  
咳や鼻水などによる飛沫・接触感染
- ◆**潜伏期間**  
2～8日（典型的には4～6日）
- ◆**症状**  
発熱・咳・鼻水などの風邪様症状が数日続きます。多くは軽症ですが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状がでて、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。
- ◆**予防方法**  
手洗い、おもちゃの消毒（消毒後、必ず流水で洗う。）



〈平成30年と過去5年間平均との比較〉



生後3か月以下の乳児やリスクの高い基礎疾患を有する小児（特に早産児、生後24か月以下で心臓や肺に基礎疾患がある小児、神経・筋疾患や免疫不全の基礎疾患を持つ小児等）では重症化することがあります。